

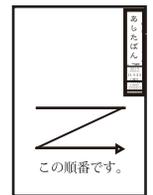
# あしたばん

2012年  
(平成24年)  
11月4日  
日曜日

あしたばん編集部  
発行所：加藤文俊研究室  
info@ashitaban.net  
http://ashitaban.net/

女将さん特別号

ご協力してくださったみなさま



- ①伊波荘
  - ②やまのべ旅館
  - ③スナッパー
  - ④オレンジハウス・バロン
  - ⑤阿蘇
  - ⑥おしどり
  - ⑦サントモ
  - ⑧夕景
  - ⑨アンバージャック
  - ⑩オーシャンクラブNo.3
  - ⑪つくば
  - ⑫モロミド
  - ⑬新鼻荘
  - ⑭バーディー
  - ⑮ラッパ荘
  - ⑯すずらん
- (敬称略)

ありがとうございました！

## 女将さん大集合！

島には、こんな凛々しさがあります

二〇一一年九月の三宅島大学開校直後から開始した、女将さんのポスター作りが、今回の作成をもってひとまず終了となる。これまで五回の活動を行い、三宅島観光協会に登録されている宿のうち、十六人の女将さん取材してきた。それぞれ二枚ずつ、計三十二枚ができあがった。ポスターはA1サイズに印刷し、取材先に届けており、宿の中に貼つてあるものも沢山ある。また、一部は第二回レディースランや、東京都庁でも展示された。

限られた時間ではあるが、様々な話の言葉や表情から読み取った女将さんの魅力を、文章と写真で表現する。島や民宿に対する想いは十人十色。そのどれもが強く、優しい。ポスターにもそれがあらわれているのではないだろうか。

ここに、これまで作成してきたポスターを全て並べた。細かなところは、直接民宿を訪れて女将さんと一緒に見て欲しい。今後、これらすべてを島内で展示する『ポスター展』の開催も考えている。



この『あしたばん』は、加藤文俊研究室が三宅島大学リサーチの一環で制作しています。



んふあつ

ウクライナの先生、だったんだけど、喜んで帰られたねえ

みいんが見てくれるからねえ



気まぐれな土気をこみみ解く、旬のものを食べる。日が流れたら、その日のことをゆくりと振り返る。

ここに「島の生き方」をお土産にしよう。



「島」を愛する人たちが、日々積み重ねてきた。それは、島という場所の歴史、文化、そして人々の生活の営み。それは、島という場所の歴史、文化、そして人々の生活の営み。それは、島という場所の歴史、文化、そして人々の生活の営み。



前に進むしかないもんね。



ないかな。



私の居場所はここ。

「島」を愛する人たちが、日々積み重ねてきた。それは、島という場所の歴史、文化、そして人々の生活の営み。それは、島という場所の歴史、文化、そして人々の生活の営み。それは、島という場所の歴史、文化、そして人々の生活の営み。



「他も行ってごらん。」

「島」を愛する人たちが、日々積み重ねてきた。それは、島という場所の歴史、文化、そして人々の生活の営み。それは、島という場所の歴史、文化、そして人々の生活の営み。それは、島という場所の歴史、文化、そして人々の生活の営み。



「究極の非日常」



ジャストサイズ

「火があったら、今がなくて、海と山の恵み、自然のなかで暮らすということ」



四十五年間が彼女を島の人にした

「島」を愛する人たちが、日々積み重ねてきた。それは、島という場所の歴史、文化、そして人々の生活の営み。それは、島という場所の歴史、文化、そして人々の生活の営み。それは、島という場所の歴史、文化、そして人々の生活の営み。



コミュニケーションで大事です。目と耳は離れてしまっても、心と心はつながります。人間のことをよく知っているんです。



58年の噴火のとき、お客さんが「不当に財産だ」と思った。はじめは東京に帰ろうとしていた。でもお客さんの「行く場所がなくなる」という声のおかげで、島を再開。ひとが集まり、はじまった宿は、ひとに支えられ、続いている。



今、いる場所

生まれ育った場所

「島」を愛する人たちが、日々積み重ねてきた。それは、島という場所の歴史、文化、そして人々の生活の営み。それは、島という場所の歴史、文化、そして人々の生活の営み。それは、島という場所の歴史、文化、そして人々の生活の営み。



心のあるひと

「島」を愛する人たちが、日々積み重ねてきた。それは、島という場所の歴史、文化、そして人々の生活の営み。それは、島という場所の歴史、文化、そして人々の生活の営み。それは、島という場所の歴史、文化、そして人々の生活の営み。



「味わい」を届ける。

「島」を愛する人たちが、日々積み重ねてきた。それは、島という場所の歴史、文化、そして人々の生活の営み。それは、島という場所の歴史、文化、そして人々の生活の営み。それは、島という場所の歴史、文化、そして人々の生活の営み。

三宅島大学は、東京文化発信プロジェクトの東京アートポイント計画事業として実施されます。